

第 1 回
第二期武蔵野市学校施設整備基本計画
策定審議会

令和 7 年 7 月 1 7 日
於 武蔵野市役所 8 階 8 1 3 会議室

武蔵野市教育委員会

第1回 第二期武蔵野市学校施設整備基本計画策定審議会

○令和7年7月17日（木曜日）

○出席委員

福本会長 垣野副会長 谷川委員 喜連委員 木村委員 小島委員
村雲委員 足立委員 澤木委員 安島委員
吉清委員 樋爪委員 真柳委員

○事務局出席者

吉原教育長
牛込教育企画課長 村越教育企画課学校施設計画担当課長
田中丸教育企画課学校施設担当課長
鈴木学校改築係主査 木村学校改築係担当
荒井指導課長 高丸統括指導主事
祐成教育支援課長 志賀教育支援課教育相談支援担当課長

○日程

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 事務局紹介
- 6 議事
 - （1）会長、副会長選出
 - （2）教育長諮問
 - （3）審議会の運営、役割、策定の進め方等について
 - ・ 現行の武蔵野市学校施設整備基本計画
 - （4）武蔵野市の現状説明について
 - ・ 児童生徒数

- ・進学率
- ・改築工事の実績
- ・直近改築校のコンセプト
- ・令和6年度実施の意見聴取紹介

(5) 未来における教育を見据えた校舎のあり方について

- ・学識経験者からの説明
- ・意見交換

7 その他

- ・次回日程 9月18日(木) 午後5時～7時 市役所811会議室
- ・9月12日 大野田小、第五中見学予定

◎開会

○事務局 これより第二期武蔵野市学校施設整備基本計画策定審議会を始めます。

本審議会は、資料1、武蔵野市教育委員会の所管する計画の策定に関する審議会設置条例に基づき設置されているものになります。このたびは審議会の委員に御就任いただきまして、誠にありがとうございます。

◎委嘱状交付

○事務局 次第の2、委嘱状の交付についてですが、今回委員の方が13名ということでかなり多くいらっしゃいますので、机上への配付ということで代えさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、事務局から1つ、審議会の公開について御提案をさせていただきたいと思います。

本審議会の運営に関わることなので、この後の議事で協議をさせていただきますが、本日傍聴を希望されている方が既にいらっしゃいます。本審議会は、市民参加の促進の観点や委員についても公募を行っており、広く市民の方々にも審議会の議論を開示させていただいて情報提供していくために、審議会の傍聴を認めて公開させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。 それでは、傍聴者の方に入室いただきます。

また、オンラインでの配信をさせていただこうと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎教育長あいさつ

○事務局 続きまして、教育長より御挨拶をさせていただきます。

○教育長 本日は第二期武蔵野市学校施設整備基本計画策定審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

武蔵野市では、平成27年5月に武蔵野市学校施設整備基本方針を策定いたしました。その中で、適正な学校規模、そして、校舎整備の方針、学校施設整備の進め方について決めました。この基本方針に基づきまして令和2年3月に武蔵野市学校施設整備基本計画を策定し、新しい時代に求められる子どもたちの学びに対応した学

校施設の改築を計画的に進めておるところでございます。

そして、今年3月にはこの計画に位置づけられた最初の改築校であります第五中学校で新しい校舎での授業が始まっております。計画的な整備を進める中で、現在は新しい校舎で第五中学校の生徒が学び、そして、同じ敷地内に設置している仮設校舎で第五小学校の児童が学んでおります。仮設校舎を有効利用することで工期を短縮するとともに、第五小学校の児童に対しては、希望者に対しましてスクールバスを運行し、子どもたちへの影響をできるだけ少なくする取組も行っております。

さて、学校施設は60年以上使用していく施設になります。本市では築50年を超える学校も多数ありますが、一方で、当時と比べまして児童生徒の数は減少している状況でございます。今年度は将来人口推計を行っており、その結果につきましても本審議会の中で委員の皆様にご報告させていただきたいと存じます。これから単純に同規模で建て替えていくのか、あるいは20年後、30年後まで見据えて今後必要な学校施設とは何か、そして、基本方針に掲げております適正な学校規模につきましても、本審議会におきまして丁寧に議論させていただきたいと考えております。

本審議会では、学識経験者の先生方、そして、校長先生方、保護者の皆様、地域の皆様、そして、行政と様々な立場の委員に参加していただきました。それぞれのお立場でどうか忌憚のない御意見をいただければと存じます。

子どもたちにとって主体的で対話的で深い学びを保障する学習習慣、そして、多様な学習方法や学習形態に対応できる可変性と柔軟性のある教育環境、そしてまた、教職員が働きやすい職場環境の実現など様々な視点から活発な議論が交わされ、先ほど申し上げました第二期武蔵野市学校施設整備基本計画の答申を皆様にご作成していただきますよう切にお願いいたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

◎委員自己紹介

○事務局 それでは、次第4、委員自己紹介に進めさせていただきます。

本日初めてお会いする方も多のかなというふうに思いますので、お一人お一人お名前と現在の学校との関わりであるとかお仕事のことを少し御紹介いただければというふうに思っております。

○委員 東京学芸大学教職大学院の教員ですが、2年間ほど附属の学校の校長を務めさせていただきました。それから、教職大学院というところなんですけれども、私の学生は全て現職の先生です。日々生々しい話を聞きながらスクールリーダーの

養成というのをやっております。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 東京理科大学の教員です。専門分野が建築で、建築計画という部門があるんですが、私の専門は学校建築で、実際に学校の中で児童や先生方がどういうふうに校舎を使っているかということ調べて、次に新しく学校建てるときにどういうことに気をつけようかということ調べるような、そういう部門になっております。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 私は築57年、第一小学校の校長です。どうぞよろしくお願いいたします。

生々しく今子どもたちと接しているわけですが、あさってから夏休みになります。あした終業式ということで、今子どもたちはわくわくして大掃除をして帰ったところです。きれいな校舎になっています。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 第四中学校の校長です。よろしくお願いいたします。

本校の建物は古いですが、大変恵まれた環境の中で教育活動をやらせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 私は境南小学校のPTA会長をやっています。よろしくお願いいたします。

うちは今、境南小は6、4、1で3人娘が行っていて、6年目にしてPTA会長ぐらいやっておかないかなと思ってやっていますというところになっています。よろしくお願いいたします。

○委員 こんにちは。第六中学校のPTA会長をしております。よろしくお願いいたします。

私は去年まで3年間二小のほうでPTA会長やっております、今うちは一番上が中3、あと小6と小3のうちも3姉妹でございます。子ども大好きということにしておきます。やはりちょっと子どものことに関してのことなので、本日いろいろと御意見とか、いろいろな意見も聞きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 二中の開かれた学校づくりの委員をしまして、学校のほうの関わりといたしましては、学校避難所運営組織の会長をしております。二中と桜野小両方を受け持ってやっていますので、よろしくお願いいたします。

○委員 私の前にパソコンはないんですが、私はアナログなものですからiPadを持っていないので、自分のパソコンも持ってこれないので、自分だけペーパーレスにならないんですが、すみません、お許してください。滞ることもあるかもしれませんが、ついていくようにいたします。

私は第三中学校の開かれた学校づくり協議会、それから、地域コーディネーター

をしております。三中は私とても長いものですから、大体校長先生は何人変わったんだろうというぐらいいて、もうそろそろ定年になってもいいかなと思う頃にこのお話が来たものですから、三中のことも施設の整備の話ですので、頑張りたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員 青少協境南地区から来ました。青少協の地区委員会議の代表として今回参加させていただいています。

地域でいろいろやっているんですけども、今回は青少協の代表ということで参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

あさってからジャンボリーが始まりますので、第一発目で境南地区に行ってきますので、天気もよさそうなので楽しんでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員 公募市民として参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

私はPTAを令和5年度に会長としてやらせていただく機会がありまして、その後御縁があって今回のことを知って、公募させていただいたという形になっております。引き続きいろんな学校のそれぞれの事情を踏まえた上で、私は子ども自体が小学校6年生と1年生が第四小学校にいるんですけども、どちらも男の子で、今回PTAで参加されている委員のお二方は女の子ということで、男の子目線、女の子目線、ジェンダーですとかそういった部分も含めて何か御提案できればなと思って参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 総合政策部長をしております。よろしくお願いいたします。

私は第六期長期計画、第2次調整計画、皆様御存知だと思いますが、そちらの5つのテーマの中でこの学校改築についてというところを取りまとめたというところで、そちらの部署の担当ということで出させていただいているという形で認識しております。また、たまたまというか、前回の基本計画最後の1年なんですけれども、策定委員会の委員もさせていただきましたので、そういう意味では、そこからこの間の変化を見据えてまた議論に参加させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員 皆様、こんにちは。武蔵野市財務部長をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

私は財務部長の前に教育部長をやらせていただいております。令和3年、4年の2年間だったんですけども、前の前の教育部長を務めておりました。着任した

ときに、ちょうど一中、五中の基本設計が固まるというようなタイミングで本当にがつつりとこの学校改築にも携わっておりました。今回は全く別の立場から、財務という立場からの参加になりますけれども、皆様とよい議論ができたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 教育部長をしております。

教育部のほうは2年目ということになります。昨年度は学校の教育計画のほうの策定を委員にもお力添えいただきましたけれども、そして、それがソフト、今年度はどちらかといえばハードですね、学校の施設の整備計画ということでやっていきたいと思っております。教育部長という立場もございますけれども、本審議会の審議委員としても頑張って発言をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◎事務局紹介

◎議事

(1) 会長、副会長選出

○事務局 それでは、次第6、議事(1)会長、副会長の選出に進めさせていただきますと思います。

資料3です。こちらが審議会の設置条例施行規則となっておりますが、1ページ、4条の2項のところで、会長は委員の互選によりこれを定め、副会長は委員の中から会長が指名するとなっております。

皆様の中からどなたか推薦で、会長を御推薦いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 それでは、学校教育に精通されており、また、管理職の経験をお持ちである福本委員にお願いできたらと思うんですが、いかがでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。

今、福本委員を会長にというお話でありましたが、皆様、いかがでしょうか。

(拍手)

それでは、福本委員、会長をよろしくお願いいたします。

続きまして、副会長については、福本会長のほうに選んでいただく形になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○会長 恐れ入ります。副会長ということで、学校建築学専門の垣野先生がいらっ

しゃいますので、ぜひお願いしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

(拍手)

○事務局 皆様、ありがとうございます。

それでは、ここからは司会進行を会長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○会長 改めまして、本審議会の会長に選出していただきました福本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私の仕事は恐らく皆様の意見をたくさんいただくことかなというふうに思っておりますので、円滑な会になるように御協力いただければというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○副会長 副会長を拝命しました、垣野と申します。これから多分2年間のお付き合いになるかと思いますが、会長を支える形でいろんな方々の意見をいただきながら、皆様と考えをまとめていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

○会長 ありがとうございます。

◎議事

(2) 教育長諮問

○会長 それでは、早速ですが、議事を進めさせていただきたいと思います。

議事の2です。教育長諮問について、教育長から諮問をお願いいたします。

なお、諮問文ですが、お手元の資料4を御確認いただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○教育長 第二期武蔵野市学校施設整備基本計画の策定について。武蔵野市教育委員会の所管する計画の策定に関する審議会設置条例第3条の規定に基づき、下記事項について諮問いたします。

1、諮問事項。第二期武蔵野市学校施設整備基本計画の策定について。

2、諮問理由。将来の予測が困難な時代を背景として、個人の価値観の多様化、デジタル社会の進展等により、子どもたちや学校教育を取り巻く状況が急速に変化しています。また、本市においては、公共施設が更新期を迎えると同時に、物価高騰をはじめとした社会情勢の変化への対応も求められております。

このような状況の中、本市においては、令和2年3月に策定した学校施設整備基本計画に基づき、第五中学校、第一中学校、第五小学校、井之頭小学校の改築に取

り組んでまいりました。本審議会におきましては、子どもの学びを第一に、全市的な視点から中学校の適正な数や未来における教育を見据えた校舎の在り方について、建築面や財政面など様々な観点も含めて検討し、本市の今後の学校改築計画について御審議くださいますようお願い申し上げます。

○会長 教育長、ありがとうございました。

ここで教育長は退席なさいます。ありがとうございました。

◎議事

（３）審議会の運営、役割、策定の進め方等について

○会長 それでは、引き続き議事を続けさせていただきます。

議事３、審議会の運営、役割、策定の進め方等についてに入りたいと思います。

まず、協議事項がございますので、そちらに関して、まずは審議会の運営について事務局のほうから資料の説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、審議会の運営としまして、本日５点ほど皆様に決めていただきたいと思っております。

資料５を御覧ください。こちらは審議会の運営案という形でお配りをさせていただいております。

まず第１点目ですが、この審議会の公開についての確認になります。このことは先ほど皆様に御了承いただきました。ただし、委員の皆様の合意により、部分的にもしここは非公開でできるということもあり、そういうところも含めて確認をさせていただこうと思っております。

２点目、傍聴要領、傍聴のルールについては、資料６に記載をさせていただいております。長くなりますので、こちらのほうを細かく読むのは、省略させていただこうと思うので、目を通していただければと思います。

３点目、議事録について、会議録を作成しまして、市のホームページに掲載をさせていただこうと思っております。

なお、それぞれの発言に関しまして、正副会長以外については委員という形でお名前を伏せて公開をしたいと思っております。

４点目、会議の時間についてです。このことにつきましては、本会議については２時間以内を原則とさせていただきますが、会議の進行によって、皆様の合意があれば延長できるということで案を出させていただいております。

最後、５点目になります。この会議の連絡について、皆様には連絡手段としては

原則メールを使わせていただこうと思っております。ただし、メールに添付できない資料をお送りするときには郵送いたしたいというふうに思っております。

以上、審議事項として5点、よろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございました。

ただいま運営に関しまして御説明いただいたんですが、今の御説明に関して何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

異議はないですかね。ありがとうございます。

それでは、今の案にのっとして、審議会のほうを運営させていただきたいというふうに思います。「(案)」を削除していただければと思います。お願いいたします。

続きまして、審議会の役割と計画策定の進め方について、事務局のほうから御説明をお願いいたします。

○事務局 審議会の役割として、審議会は、教育委員会からの諮問を受けまして第二次武蔵野市学校施設整備基本計画——この後こちらは第二期計画というふうに省略して読ませていただこうと思っております——の審議を行い、答申を作成いただくということをお願いしたいと思っております。

なお、今回の第二期計画では、資料7を御確認いただければと思いますが、平成27年に作成した学校施設整備基本方針、これが一番最初にできた方針になるのですが、この方針の内容も併せて見直しをさせていただき、見直した方針を包含する形で今回、第二期の計画を策定していただきたいと考えております。

次に、第二期計画策定の進め方としまして、こちらは資料8を御覧ください。

資料8にこの後審議会を全部で10回、今年度5回、来年度5回ということで予定させていただいております。審議事項として今の予定を書かせていただいておりますが、進行状況によって、これは変わってくるかなというふうに思っております。今年度の目標としては、全5回の中で審議を進めた上で中間まとめという形で作成する予定となっております。

こちらの審議を進めていただくにあたり、武蔵野市の最上位の計画である第六期長期計画、こちらの第二期調整計画で今回の審議会についても少し記載がございますので、御紹介をさせていただこうと思っております。

資料9を御覧ください。

こちらタイトルが長いので、六長・二次調というふうに呼ばさせていただきます。六長・二次調の表紙の部分とこちらの学校の建て替えの計画の部分に関して抜粋し

たものを資料として載せさせていただいております。

なお、この計画については、令和5年12月に市長選挙が行われたことに伴い、市長公約のうち第六期長期計画の調整計画から読み取ることが難しいテーマに絞って策定しているものであり、その中の一つのテーマが今後の学校改築の在り方の検討となっております。

この後、主要な論点でもお話をさせていただこうと思うのですが、六長・二次調の策定審議にあたり、中学校の適正な数であったり、未来の学校はどうあるべきか、様々な意見がこの六長・二次調の議論の中でも交わされました。最終的には、子どもの学びを第一に、今後20年、30年先を見据えて、全市的な視点から中学校の適正な数、未来における教育を見据えた校舎の在り方について、子ども、教職員、保護者、地域の意見や専門家の知見を踏まえ、建築面、それから、財政面など様々な観点も含めて検討を進めてほしいというふうに六長・二次調の審議でなっております。

このことを受けて、今年度の主要なテーマとしまして、全市的な視点から見た中学校の適正な数、未来における教育を見据えた校舎の在り方について主要な論点として審議を進めていただきたいと思いますと思っております。

そこで、併せて先ほど基本方針のところを少し御紹介したんですが、平成27年に作成した基本方針の中では、小学校の適正な数、それから、中学校の適正な数というところも基本方針の中で定められている部分がございます。ここの整合性、今回これを見直していくというところもありまして、併せて議論を進めていきたいと考えております。

来年度も全5回審議会を予定しております。こちらでは改築の順番やこれからの建て替えに係る事業費の算出なども検討をしていきたいというふうに考えておりまして、最後の第10回のところで答申が完成する予定となっております。

なお、資料10、こちらで現武蔵野市の学校施設整備基本計画、今現行使われているものをお配りさせていただいておりますが、この中を見ていただくと本当に様々な論点が含まれております。ちょっとこれを一個一個取り上げてしまうと、この審議会の10回という中で全てを審議することというのはなかなか難しいというところがございますので、主要論点以外の部分については、少し事務局のほうで案をつくらせていただいて、審議会の中で確認いただくという形で進めていきたいというふうに考えております。

○会長 ありがとうございます。

ただいま特に審議会の進め方について御説明いただいたんですけれども、ただい

まの御説明に関しまして質疑ですとか御意見等あればぜひ出していただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

なかなか2年間の膨大な御説明かと思いますので、飲み込むにもちょっと時間がかかるかもしれません。そうしましたら、今すぐ難しいということであれば、またどこかのタイミングで御質問等いただければというふうに思います。

◎議事

(4) 武蔵野市の現状説明について

○会長 続きまして、議事4、武蔵野市の現状説明についてというところに入っていきたいと思います。事務局のほうから御説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、武蔵野市の現状の説明ということで今回の大きなテーマの一つになります。委員の皆様はそれぞれの立場から入られておりますので、それぞれ持っていらっしゃる知識の量というところも大分違うかなと思います。武蔵野市の現状をまず皆様にしっかりと説明をさせていただこうと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、資料11が3種類ございまして、リーフレットがございます。「みんなで考えよう！武蔵野市の未来の学校づくり」というリーフレットをつくらせていただいております。こちらのボリューム2というものから説明をさせていただこうと思いますので、お手元に御準備をお願いいたします。

まず、ボリューム2の中では第五中学校のトピックを一面のところでは取り上げております。この3月から新しい学びに対応した新校舎での授業がスタートということで、この第一期の基本計画の中で位置づけられた最初の学校という形になります。こちらの学校が3月から新校舎での授業が始まっております。

写真等も載せさせていただいているんですけども、五中ステップ、大階段のところであるとか、あと、ラーニング・コモンズ、図書室機能になるんですけども、開放的な図書室の機能というところで新たなエッセンスが入っております。また、普通教室も新しいところで、ガラス張りによく廊下が見えるところとか、カウンターの自習スペース等、新しいエッセンスがいろいろ取り込まれた学校が出来上がっているということで紹介をさせていただいております。

なお、ちょっと宣伝になるんですけども、下にユーチューブのほうも載せさせていただいておりますので、もしお時間ありましたらこちらのほうを見ていただければと思います。

続きまして、リーフレットの紙ベースのものであると中面のところになるんですが、武蔵野市の学校建て替え計画の改定に向けてということで、昨年度からこの審議会に向けて準備を進めてきました。令和6年度の実施のところをちょっと御紹介させていただこうと思います。

令和6年度のところでは、各地域でワークショップを全6回、参加者115名ということで、保護者、地域の方、教職員の方ということでいろいろ御意見をいただいております。654件の御意見をいただいております。やはり開かれた学校であるとか安心とか安全、ゆったりとした空間・収納、快適に過ごせる、そういった御意見が多く出ていたということでまとめさせていただいております。

真ん中に進みまして、中学校の生徒、こちらは実際中学校の当事者の方からもらっております、全6校の生徒会の役員の方にそれぞれスクールでミーティングをさせていただいて、御意見をいただいております。

代表的な意見を載せさせていただいているので、幾つか取り上げさせていただこうと思います。クラス数が多いと友達の関係、やっぱり中学生という思春期のタイミングにもなりますし、友達との関係が悪くなったりとかというときにクラス替えの配慮がしやすいという意見があったりとか、逆にクラス数が少ないと学年ほとんどの生徒と人間関係が築けるというような意見もありました。あとは、休み時間に友達としゃべられるスペースがほしい。なかなかやっぱり中学校のところで、休み時間にほかのクラスに入っていくというのは難しいというところがあったりするので、そういう意見が出ていたのかなと思っております。

続きまして、右側に進んでいただきまして、各校のPTA会長とのワークショップというものも載せさせていただいております。こちらは参加者23名ということで、今度は保護者さんの目線での意見をいただいております。

先ほどの中学生の意見とも少しかぶるところがあるんですが、やはり人間関係の部分、生徒もそうですし、やっぱり先生とも合う、合わないというところはどうしてもあるだろうというところで、その配慮がしやすいというところはクラス数が多いところのメリットであるのかなというところ、逆に小中学校であると、先生の目が行き届くという意味でいうと、クラス数は少ないほうが良いという御意見もありました。

また、通学に関して、中学生は自転車通学でもよいのではないかであるとか、学区を柔軟にして学校を選んでもよいのではないか、そんな意見もございました。

下のほうに進みまして、今年度、来年度の実施のところになります。まさにこの

審議会の内容になってきます。先ほど申し上げたとおり、全市的な視点から中学校の適正な数、未来における教育を見据えた校舎の在り方ということで、様々な立場の方に審議会に入っていただいて、闊達な議論をいただければというふうに思っております。

ボリューム2の最後のページになるんですけれども、現在進行中、武蔵野市の学校建て替え事業ということで、先ほど御案内しましたとおり、五中に関しては完成をして、今は一中が建て替えのさなかという形になっております。一応年内に建て替えが終わる予定となっております。そこが終わると第五小学校、井之頭小学校というふうに改築が進んでいくという形になります。

続きまして、ボリューム3のほうで今度は説明をさせていただこうと思っております。お手元のほうに御用意をお願いいたします。

まず、表紙になりますが、ボリューム3に関しては、この7月に作成をさせていただいたばかりのものになっております。この審議会を意識してつくらせていただいておりますので、ちょっと詳しく説明をさせていただこうと思っております。

まず1番、学校の建て替え計画ということで、審議会を設置しますということを一面に取り上げさせていただいております。先ほどから申し上げているとおり、主要な論点のところを挙げさせていただいております。

2番、武蔵野市最新の学校コンセプトということで、先ほど五中为例に取り上げさせていただきましたが、ラーニング・コモンズ、学校の図書館のところであるとか学年コモンズ、休み時間の居場所であるとかグループ学習でも使えるスペースというところになっております。また、小学校でいうとオープンスペースであるとか、先ほど言った五中ステップ、大階段のところですよ。発表にも使えるような階段になっております。また、自習スペースであるとか、不登校児童対策の部屋という形で新たなコンセプトを様々取り入れさせていただいているので、御紹介をさせていただきます。

続きまして、みんなで考えよう！武蔵野市の未来の学校づくりということで、3番になります。五中生徒の新校舎をお勧めランキングということで、実際3月から五中の生徒には新校舎を使ってもらっていて、どんなところが気に入っていますというところを、アンケートで生の声を集めてまいりました。多かったのが五中ステップ、発表もできる階段というところで、とても広くて、ほかのお友達とちょっと授業で使うこともあるんですけれども、それ以外にも他学年との息抜きであるとか交流にも使えるようなスペースになっていますというような意見がございます。ま

た、ラーニング・コモンズ、やはりオープンなスペースにある図書館という形になっておりますので、気軽に入られるようになったというところも1つ好感を持たれているのかなと思っております。

3番、体育館、こちらについては体育館が広がっているというところと設備がよくなっている、また、こちらはこれからの学校の建て替えにも大きく影響してくるところになるのですが、防災機能もかなり充実をした体育館になっております。今後建て替えというところで防災のところも1つ大きな論点だと思います。

真ん中の4番については、先ほどボリューム2と重複する部分がございますので、省略をさせていただきます。

次、5番です。現場の声ということで、これからの学校にはこれが必要ということで、これまではやはり子ども目線での意見を集めるというところに重きを置いてきたところなんですけど、今年度に関しては、実際の教職員の方にもアンケートを御協力いただきまして、64名の教職員の方からアンケート回答をいただいております。

やはり先生が目線になりますので、子どもの教育に対しての意見というのがかなり多くはあるんですけども、一方でちょっと注目していただきたいのが左下の部分を見ていただくと、休憩スペースや更衣室を充実させて働きやすい職場にしてほしい。やはりこれからは、教職員の方々が働きやすい職場であることというのも学校に求められることなのかなということで、こちらも御紹介をさせていただきたいというふうに思っております。

続きまして、6番に進みます。市立小中学校の児童生徒数の推移ということで書かせていただいております。こちらを見ていただくと、武蔵野市の人口に伴ってというところがあるんですけども、小学校の児童数に関しては、ピーク時と比べて現在の児童数というのは大体4割ほど減ってきています。ただ、直近のところを見ていただくと、少し右肩上がりで増えてきて、ちょっと横ばいになっているような状況が見えるかなというふうに思います。

次に、中学校に関しては、ピーク時と比べると生徒数は6割ほど減ってしまっているという状況になっております。ただ、直近のところでは割とずっと横ばいをキープしているのかなというふうに見えるかなと思います。

続きまして、7番、私立国立小中学校への進学率ということで載せさせていただいております。やはり武蔵野市という土地柄というところも1つあるのかなと思うのですが、私立国立の小中学校を選んで進学される方も一定数いらっしゃるということで、こちらも御案内をさせていただこうと思います。

中学校でいうと、全生徒のうちの4割強、45%に近いぐらい今は私立国立の学校へ進学しています。逆に小学校のほうは1割程度、こちらはずっと横ばいという形になると思うんですけども、私立国立を選ぶ方もいるということが1つ、武蔵野市の現状として御認識をいただければなというふうに思っております。

ボリューム3の最後の部分になります。8番になりますが、市立小中学校の学区図、それから、築年数の図になっております。こちらはさっきのボリューム2でも載せているんですけども、ボリューム3では築年数のところに少しフォーカスを入れさせていただいております。

特に見ていただくと分かると思うんですけども、囲われている部分、築50年を超えている学校というのがかなり武蔵野市は多く存在をしております。基本的には築60年を建て替えの目安というふうにしておりますので、これからやはり計画的に建て替えを検討していかなければいけないということがこちらを見ていただくと分かるかなというふうに思います。

続きまして、9番、学校建て替え事業に関するデータということで、実際に建て替えるというふうになったときにどのくらいの期間が必要になるのかというところをデータでお示しをさせていただいております。

データ1番のほうは学校の建て替えに必要な期間ということで、基本計画から始まりまして、基本設計、実施設計と設計部門が進みます。その後、既存校舎を壊して基本建て替えていくという流れになっていくんですけども、新校舎が建て終わるまで、基本計画から換算すると約5年間かかってくるということで、1校建て替えるのにかなり時間がかかるということを御認識いただければと思っております。

また、データの2番、こちらは昨今のニュースでもよく取り上げられていると思いますが、建築費の推移ということで書かせていただいております。やはり一般的に近年の物価高騰であるとか人手不足に伴う人件費の高騰、こちらが建築費に思い切り影響を与えております。この10年で約4割ほど、直近のところはこの上昇率がさらに上がってきているような傾向となっております。なので、特にこれから建て替えていく学校に関しては、建て替え後は60年単位で使っていくような学校になりますので、適切な形で建て替えていくということが非常に大事なのかなということで紹介をさせていただいております。

続きまして、資料の11番の最後になります。武蔵野市の児童生徒数及び学級数ということで紹介をさせていただいております。こちらの資料を見ていただきまして、今どの学校が何人ぐらいの生徒がいて、それに対してクラスの数は何学級あるんだ

よというところを見ていただければと思います。そうすると、規模の大きい学校、小さい学校というところも見えてくるのかなというふうに思っております。

以上が武蔵野市のまず現状というところで、データでお示しできる部分を御紹介させていただきましたので、ここまでで1回説明を切らせていただこうと思います。

○会長 ありがとうございます。

ただいま武蔵野市の現状と、それから、ここまでやってきたことというんでしょうか、取組の実態ですね。それと子どもの数等々について御説明をいただきました。これを踏まえて今後我々がこの先どうしていくかという議論をしていくことになるのかなというふうに思います。

ただいまいただいた御説明に関しまして、ちょっと分かりにくいですとか、こころはどうなんだというものがあればぜひお出しいただきたいというふうに思いますが、委員の皆様、いかがでしょうか。

お願いいたします。マイクをお願いします。

○委員 リーフレットの3番の5番の教職員の方の声を聞かれたというところで回答者が64名と書いてあるんですけれども、少ないなと思ったんですけれども、回答の割合はどれぐらいなんですかね。境南小はたしか教職員39人だと思うんですよ。その意味で言うと、全市立の小中学校に聞いてこれだけと。何割ぐらいの回答をもらえているのかなと思ったんですけれども。

○事務局 すみません。割合にしてみると確かに一部の方になってしまうのかなというふうに思っております。どうしてもやっぱり教職員の皆様は忙しい中で、校長会等で周知はさせていただいたんですけれども、ちょっとその対応ができていないというところで、今この数しか集まらなかったという状況にはなっております。全体に対しての割合という意味でいうと、分かりますか。

○事務局 失礼しました。回答は任意だったということと、それから、教職員全体の割合からすると、1割強というところになるのかなというふうに思います。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○会長 そのほか、いかがでしょうか。特にはよろしいでしょうか。

とても興味深い資料をお示しいただいたのではないかなというふうに思いますので、またぜひじっくり見ていただければなというふうに思います。ありがとうございました。

◎議事

(5) 未来における教育を見据えた校舎のあり方について

○会長 では、続きまして、議事の5番、未来における教育を見据えた校舎の在り方についてというところに入ってまいりたいと思います。事務局のほうから御説明をお願いいたします。

○事務局 先ほど申し上げた主要な論点の一つである未来における教育を見据えた校舎の在り方について、今日は教育の専門家である会長、それから、学校施設の専門家である副会長のほうにお越しいただいておりますので、こちらからは講義という形で、皆様に、特に未来の学校はどういうものなのかというイメージをここで湧かせていただきたいなというふうに考えております。それぞれが15分程度で講義をいただこうと思っております。

向かって私の右斜め前、委員の後ろのところのスクリーンにちょっと投影をさせていただきます。大変申し訳ないのですが、少し席を移って見やすい位置に移動していただけるとありがたいです。

ちょっと今準備をしている中でこの後の説明をさせていただきます。講義という形で会長からまず教育の視点でお話をいただきまして、その後、副会長のほうから建物という観点での講義をいただきますが、各委員の皆様からこの講義を一通り受け終わっていただいた後、意見交換という形でそれぞれお一人お一人御発言をいただくお時間を設けさせていただこうと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

○会長 それでは、私のほうからプレゼンさせていただきたいというふうに思います。

今、講義という御紹介をいただいたんですが、そんな大それたものではなく、皆様にちょっと一緒にこれから考えていく上で、私のほうからは少し広く教育という観点からどんなことを考える必要があるのかということをやちょっと御提案させていただきたいというふうに思います。その後、学校建築という観点から、副会長から少し具体的な私たちが映像を持てるような御紹介をさせていただきたいと思います。その後、ぜひ忌憚のないといいますか、素朴な質問ですとか、ここはどうなんだという意見をいただければ大変うれしいかなというふうに思います。

それでは、すみません、今日私腕時計を忘れてしまってスマホを見ながらになりますが、よろしくお願いいたします。

最初、このスライドの1枚目にある写真なんですが、ちょっとどんな図かイメー

ジは湧きますか。これ実はニュージーランドの学校です。私はニュージーランドの学校経営を研究しておりまして、毎年ニュージーランドのほうに行っています。これはどういう写真かといいますと、小学校なんですけれども、たまたま学校の中が改築の日で職員会議をやりたくてもやる場所がないというところで、どうする、どうするということで、これ実は駐車場なんです。天気いいし、パラソルを開いて今これは職員会議をやっています。真ん中に立っている女性の方が校長先生で、今やっている内容は教育省からこういう今日通達が来ましたというところをやっています。私は30年ニュージーランドに通っているんですが、この写真が一番好きな写真です。ある意味これが未来の教育における学校であってほしいというのが私の願いです。

未来の教育を据えた校舎の在り方を考えるということで御提案させていただきます。自己紹介を先ほどもさせていただきましたが、ここに書いてあるようなこと、自律的学校経営システムですとか学校評価、スクールリーダー養成なんかをやっています。2年間校長をやらせていただいたんですが、期間を見ていただくと何かお気づきになりますでしょうか。

この校長をやった期間、どっぷりコロナと向き合った2年間でした。ですので、通常の学校は知らないんですが、イレギュラーな学校の実態だけは見てきたという感じです。

発表の流れです。皆様御存じのことたくさんあるかと思いますが、このような流れでお話を進めさせていただきたいというふうに思います。

まず初めに、これからの学校教育をどういう観点で考えていったらいいのかということです。そのまず前提となる社会の変化です。これはもう散々言い尽くされていることですが、やはりキーワードとしては予測不可能だということです。言い換えると何が起こるか分からない。でも、今の子どもたちはその社会を生きていかなきゃいけないというところですね。

もう一つは、よく教育DXという言葉を使いますが、AIやロボットと共生していくというのが当たり前になっていくというところですね。賛否ありますけれども、もうこれが現実だということ。また、3点目には共生社会とか社会的包摂という言葉を使います。社会的包摂というのは、簡単に言えば世の中にはいろんな人がいるわけですね。弱者もいます。いろんな意味での弱者もいます。そういう方を我々と同じ社会の一員だという観点で、みんなと一緒にやっていく必要があるんだというところ。そして、4つ目にはウェルビーイングという言葉がよく使われます。

これは日本語に訳すのが非常に難しいです。キーワードとしては幸せという言葉がよく使われますね。精神的豊かさというのをどう重視していくのかと、こんなのが社会の変化としては出ています。

この前提を踏まえてどういう観点で教育を見ていく必要があるのか。これは教育を語ろうと思ったら、いろんな観点で語れてしまうんですね。ですので、私が考えているのは3つの柱です。1つは子どもの新たな学びという観点、もう一つは教職員の協働体制という観点、もう一つは多様なアクターとの連携という観点、この3つの観点で教育を見ていくということを御提案したいというふうに思います。

今回の審議会では未来の教育という言葉を使っているんですが、この未来の教育というのはもう今までも語られているんですね。これまで未来の教育というのをどういうふうに描いてきたのかというのをざっくりお話しさせていただきます。

遡るのはどこからがいいかなと思ったんですが、欠かせないのが2015年のOECDの動きです。ラーニングコンパスとよく言葉を使うんですけども、実はこの2015年の前に日本でとても大きなことがありましたよね。2011年、私たちがやっぱり切り離せないところです。東日本大震災があって、ある意味もういろんなものが壊れてしまったわけです。そこからどう復活していくかというのは未知数だったはずなんです。

なので、これから先を見たときにもう今までとは全く違うということで、子どもたちの教育をどうして考えていくのかということで、学びの羅針盤2030というのをOECDのほうで打ち出しました。よりよい未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー、力ですね。それを表現すると3つあるということです。1つは新たな価値をつくり出すという力、それから、対立やジレンマに対処する力、責任ある行動を取る力、こういうのを具体的にどう子どもたちに身につけさせていくかというのが大事だというのが打ち出されます。このOECDのこれはもう日本を含め世界各国がこの流れで学びというものを考えるようになります。

それで、中教審のほうでも同じようなことが言われているんですけども、ただ、1点ちょっと先ほどなかったものとしては、求められる資質・能力の中で人間ならではの感性を働かせてという言葉が出てきます。AIだ、ロボットだというのがありますが、それでもやはり人間としての感性というのを大事にしていくというところも打ち出してくれています。

そしてもう一つ、私はこれを授業なんかでも非常によく使うんですが、2022年に経産省のほうから未来人材ビジョンというものをしています。これからどういう

力が必要になってくるかということです。いろいろ書いてあるんですが、見ていただきたいのはブルーと赤い表の部分ですね。これから仕事をしていく上でどういう力が必要かというところで、2015年と2050年を比較しているんです。これ全く違うというところを見ていただきたいんです。細かいのは、後ほど資料は皆様に見ていただけますので、後で見ていただきたいんですが、たかだか30年ちょっとで求められる力が全く変わってきているということです。それをどう私たちが予測していくのかというところは非常に難しいものかなというふうには思います。

そして、第4期教育振興基本計画、これは文科省が出すんですが、日本の教育政策をどうしていくかというのを今文科省のほうで5年ごとにつくっています。そこで言っているのが今の話とほとんど同じことなんですけれども、私はこの2つのコンセプトというのを大事にしたいなと思っています。

1つは予測不可能だからこそ持続可能な社会をどうつくっていくのか、その力を子どもたちにどう身につけさせるのかということ、もう一つはやはりウェルビーイングを大事にしたいというところでしょうか。そして、ついこの間、経団連のほうからこういったものが出されています。やはり経団連なので、実際に社会に出ていったときにどういう力が必要か、どういうことを考えていくことが必要かというのが出ています。多様性、好奇心、探求力、こういうのが初等中等教育では必要だということが言われています。

もう一つ、下のブルーの枠で囲ったところの2つ目です。教員が教育指導に集中できる環境整備、学校現場の人材の多様化というところもやっぱり指摘していただいています。大事なのは、これだけ動いている社会の中で子どもたちが自分で課題を見つけていくという力が必要だと、そういう子どもたちを育てていくのが我々の仕事だということでしょうか。こういうものを踏まえて、今実際の教育政策でどういうところがポイントになっているかというところなんです。

先ほど私が申し上げさせていただいた3つの観点、その観点でまとめさせていただきました。1つは、観点1として子どもの新たな学びというところなんです。キーワードは個別最適な学びというのと協働的な学びという言葉です。これ実は相反するような面も持った言葉なんですよね。でも、それが大事だ。じゃあ、どうしたらいいのというところなんです。これを具体的に学校建築という観点でこの後、副会長に御提案いただけたらと思いますので、後でじっくり見ていただきたいなというふうに思います。

観点2としまして、私はここを強調したいと思います。武蔵野市のこの前の計画

ですとか議論とかも読ませていただいたんですけれども、私はすっぱりここが抜けていると思います。抜けているというよりも、今ここが大きく変わってきているということです。教員の取り巻く環境がとても変わってきています。皆様もニュースなんかで見て御存じだと思うんですけれども、1つは教員不足というのもありますよね。それから、不祥事等もありますけれども、人数という観点と協働するというのはちょっと観点が違うんじゃないかなというふうに思っています。

今、一生懸命国のほうでも、また、行政のほうでも教員の定数を改善していくとか給料、待遇をよくしていくとか、それから、支援スタッフというのをどんどん拡充していくようにはしています。ただ、子どもに実際に接するのはやっぱり教員なんですよね。この教員の協働体制をどうつくるかというのは、もちろん理念的なものとか思いというものもあるんですけれども、思いだけではできない部分もあるんですね。例えば職員室、あのつくりで本当に意見交換できるのか等々、この辺を考えていく必要があるだろうというところを私は強調させていただきたいというふうに思います。

そして、3つ目です。よくチーム学校という言葉を使うんですけれども、簡単に申し上げると、今はやっぱり子どもの問題が多様化しています。家庭の問題もあります。それから、特別な支援を有する子どもたちもたくさんいます。外国人の子どももたくさんあるんですね。そういうのを先生たちだけで担うのは無理だと。ただ、やはり専門性という観点から子どもたちをサポートしていくというところも必要だ。なので、学校の中だけではなく、学校の外には多様なアクター、一緒にやってくれるような人材、環境、財、そういうものがあるので、そういう多様なアクターといかに連携していくかという観点も非常に重要であると。これが子どもの直接の学びを変えていく、ウェルビーイングを変えていくというのがチーム学校という考え方になります。

じゃあ、今お話ししたようなことを踏まえて、ちょっと私はこれは専門ではないんですが、校舎の在り方をどうやって考えたらいいかということを私なりに御提案させていただきたいと思います。

先ほど申し上げましたように、前提条件は予測不可能な社会を生きざるを得ないということです。その生きる力をどうつけさせていくか。新たな価値を見だし、自分で未来を切り開く力、とてもきれいな言い方なんですけど、これ難しいと思います。また、新たなツールを効果的に活用する、多様なものと共生する力、そして、私はここも大事にしたいんですけれども、人間ならではの感性を大切に育んでいく

という観点、これを前提にしたときには、じゃあどういう学びが必要か。今までのような一律、一斉、画一の知識の詰め込みというのはもう無理ですね。それから、大人が既定の路線を準備して、そこから外れないように、外れないように支援するというのも全くこれは違う方向でしょうね。じゃあ、どうしたらいい。丸のところが大事だよというところなんです、つまりこうした力を習得させていくためには、学習環境に対する発想自体を変えていく必要があるだろうということです。

では、どういう環境が必要か。子どもの新たな学びという観点から学習環境を考えたときに、ここは先ほど申し上げましたようにこの後の副会長の御専門になると思いますので、私はちょっと字面だけ。ただ、このテーブルを見てほしいんです。この写真、見えますか。これはニュージーランドの学校にある机です。すごくいいと思いませんか。先生と子どもたちがface to faceで向き合えるという机なんですよね。こういう仕組みというのは、ニュージーランドの学校はもう個別最適が当たり前なので、こういうのが学校の中には普通にあります。

それから、教職員の協働体制を生み出すという観点では、この写真の左側、何だか分かりますか。何か椅子がいっぱい並んでいますよね。ニュージーランドの学校は職員室がありません。これがスタッフルームです。どの学校にもこういう先生たちで話ができるというのがありますし、ソファの奥には実は小さなキッチンがあります。そこで先生たちがお茶をしながらということがあります。その右側の写真は、先生たちが実際に子どもたちの話をしているような様子です。個業型の組織から協働型組織にいかに転換していくか、そういうスペースづくりという工夫が必要だろうというふうに思います。

そして、最後です。多様なアクターとの連携を生み出すというところ、これ簡単に申し上げますと、今の学校というのは外部の人間をある意味寄せつけないようなオーラがある校舎じゃないかなというふうに思います。外にある多様なアクターは財なんですね。財産なんですね、学校にとって。そういうのといかに連携していくかという観点も必要だろうというところです。

ちょっと急ぎ足になりましたが、私のほうからは以上です。

続きまして、副会長からお願いいたします。

○副会長 一応今日お持ちしたのは、この2年の間、要はコロナが明けてから日本中でいろんな学校が生まれているわけなんですけれども、どんな感じかという最新の状態をちょっとお伝えというか、共有できたらと思います。

それで、今会長がいろんなお話をしてくださった中で、これはオランダの学校の

写真なんですけれども、オランダの学校のモンテッソーリ教育をやっている学校の先生に、モンテッソーリ教育はすごく教具がいろんな形のものを使ったりするのが結構特徴なんですけれども、そのときに校長先生にこんな特徴的な教育をしているのに、いろんなICT、ノートパソコンとかいろんなものを結構多様に取り入れるんですねという話をしたときに、校長先生が「だって、学校はプリペア・フォー・ライフの場所でしょう」と学校の社会の中での価値を一撃で射抜いた言葉がこのプリペア・フォー・ライフという言葉なんです。なので、僕はちょっとこれをいただいて、1年半後にちょっと海外の事例を集めた本を今書いている最中なんですけれども、その僕の全ての要素に吸着する言葉がこのプリペア・フォー・ライフなんです。要は社会に出る準備の場所であるということを多様に意識してこれからの学校をどうやって設計していこうかと、僕がいつも立ち戻る言葉としてこれを念頭に置いているという言葉です。

実は文科省がユーチューブチャンネルを持っています、この中にフィンランドとか北欧、それから、オランダの5つの学校のモデルというのを30分のダイジェストにまとめてユーチューブで発表というか、上げていただいているので、もし海外事例に御興味があればぜひ見ていただけたらと思います。

それで、今日は最近の小学校、中学校を見ているとこういう感じじゃないかということで挙げたのがこんな感じで、先ほど会長からお話しあったとおり主体的なとか協働だとかいう話があると思うんですけれども、これは文科省の中に学校建築の部門があって、2022年にこれからの教室はこんなふうになっていこうよねというふうに出したイメージがこれです。

これは1個の教室なんですけれども、正面に向いている子どもがいれば側面に向いている子、それから、それぞれ島が違って、やっていることもそれぞれ違うよねみたいなイメージになっているんですけれども、こういうふうに学校は本当になくなっていくのかなと思いながら見ていると、これが去年の岐阜県の福岡小学校というところの動画なんですけれども、分かりますか。

これは1つの教室なんですけれども、5つの場所で同時に展開していて、先生は今ここでプレゼンテーションの練習をこの班の子たちに対してやっているんですけれども、その先生の背後にまた全然別のことで自分たちのことをやっている子が混ざっているみたいな感じで、今たった1つのこの教室の中で、先生のほうに体を向けて先生のお話を全部聞いて45分が過ぎていくんじゃないくて、45分ほぼ児童一人一人の子どもたちのための時間に充てて、彼らが45分フル回転して頭を使いながら授

業を展開するということが本当に増えてきています。

これは戸田市の芦原小学校なんですけれども、これはノートパソコンを持っていて、出会った人と自分の書いたレポートを見せ合ったりするという社会の授業の中での一場面です。その動画がこれなんですけれども、何かちょっと散歩しているみたいな感じがしますよね。遊んでいるのかみたいな、少年とかいろいろ、男の子とか多分お子さんをお持ちの方はよく御存じだと思うんですけども、なかなか不思議な動きをする子が結構いるんですけどもというふうなことが実際に起きている中で、これが会長と同じ東京学芸大の高橋純先生という方が提案というか、まとめられているイメージをお借りしたのがこれです。

上側が単線型授業といって、先生がやっぱり前に立って先生がどんどん教えていきましょうよねと。ところが、複線型、下の場合はちょっと違うんです。まず最初、まず教科書の今日やるところをちょっとざっと見てみましょうよねと始め、その後、じゃあ今日はこの内容の中で僕はこれを学習するというふうにエクセルに打ち込みます。ところが、これはクラウドで隣の子、それから2つ先の机の子とつながっているんで、隣のやつが今日何しようとしているかというのがリアルタイムでここにば一っと文字が上がっていくんです。そうすると、あいつ今日あれやるのか、じゃあ俺はどうしようかな。俺はこれかなみたいな感じで、このたったこれだけの中でお互いの子どもたちが画面上でやることを見比べながら自分のやることを決めます。自分のやりたいことが決まったら、まず自分のペースでやってみるんですけども、やっぱりそうはいってもちょっとなかなか腰が上がらないという場合は、先生が前にいて、ちょっと一手目が出ないやつは前に来いと言って前でやっている。後ろ側では自分でもうどんどん進めちゃえる子は、自分の席で後ろでどんどん進めていくという感じになっています。

その後、そう言っていると今度はちょっと分からないなという感じで友達にいろいろ聞きながら、ああでもない、こうでもないというふうに相談しながらどんどん自分のレポートを書き、その後、先生が指導で回ってきてくれて、「先生、ちょっとこれ分からないんだけど」みたいな感じで、先生が必要なときには先生に声をかけて聞くというふうに展開していると。つまり今お伝えしたのは右側の非同期分散と言って、この図だと下側の複線型という、要は先生のほうに体を向けて先生から何か教えてもらうんじゃなくて、自分たちで相談し合ったり、自分は今何が必要で、何を使ってどこで誰と何をするかというのを50分なら50分の中で、相当いろんな選択肢を自分なりに決めながら進んでいくので、もうめっちゃくちゃ脳みそを使

いますよね。全然先生のほうの前を向いて、何かちょっと今日はしんどいなと思って外を見ると鳥が飛んでいるみたいな、そういう話とは全然違う。要は自分で自分が今やることを明確に決めて動くので、45分なら45分は全部自分の時間になりますという教室の展開があるかと思いきや、今度また教室とは違う。武蔵野の第五中とかを見ていただくと分かると思うんですけども、こんなふうに多目的スペースというか教室の外に、要は教室の中だけではなかなか展開し切れないようなことを支えるための場所がこの多目的スペースです。

これは文科省が2022年に報告書としてこういう感じでやっていこうよねというイメージを出しているんですけども、これと準じることが実際に起きています。例えばこれは左側が小学校3年生、右側が小学校4年生のときの僕が平面図でちょっと起こしたものなんですけれども、僕らはこうやって現場に入っているいろんなことを書き取って、それから、子どもたちや先生方はどういうふうに空間を使っているのかをいろいろ観察します。

それで、ざっと見るとこんな感じです。今見ている手前側が3年生、向こう奥側が4年生の教室になります。ちょっと壁がなくて、これはちょっと地震があったせいで引き戸を取っちゃっているというのもあるんですけども、取ってやっちゃおうぜということでそのまま運用されています。それだけじゃなくて、実はここに柱が入っていたり、それから、梁に対していろんなものが張られることで、このホワイトボードとかも置かれたりして、こっち側が俺の場所だぜというふうに3年生の先生はめっちゃ伸び伸びいろんなものが置かれています。

それで、先生の位置はあそこなんです。ちょうど教室の手前の境界線のところに先生の場所を陣取られて、先生がこうやって執務されている間、子どもたちは自分たちで話し合いをしている。それを先生は見ながら自分なりに答えしたり業務をなされていると。それだけじゃなくて、先生は自分の背後にああやって机を置いていらっしゃるの、前向いて後ろ向いてというふうに、ぱっぱっというふうに自分で執務をしたいときにはでかい机を使いというふうに、あそこは子どもたちがグループで使ってもいい場所なので、先生は自分のところの教室だぜという形で伸び伸び、こうやって自分が業務しやすいような位置に家具を置いていらっしゃいます。と思うと、今度は逆に隣の4年生は全然また家具の置き方が違って、先生はまた違う趣旨で運営されているので、それもまた先生の働き方というか、先生の選択によってこの空間がいろいろ変わっているという感じになります。

今お伝えしたこのオープンスペースがよく活用される条件というのはいろいろあ

るんですけれども、ちょっと今回は省略しますが、1個大事なのはやっぱり寸法というのがあって、なかなかちょっと分かりにくいんですけれども、もし後で御質問いただけたらいろいろ寸法を入れた写真をお出しできたらと思いますが、適切なやっぱり建築の寸法があります。

ここまでは一応教室の話なんですけれども、ここから図書室についてちょっとお話できたらなと思います。昨今、図書室はメディアセンターと言われたりラーニング・コモンズといったりいろんな言葉で語られ直されています。どんな感じか、ちょっとこれ僕の中では最強の動画なんですけれども、ちょっと見ていただきたいと思います。

これは図書室です。ずっと歩いていくんです。これ右側が職員室で、左側が図書エリアになります。図書室ではないので、今は部屋に鍵をかけて必要なときしか本が手に取れないというんじゃないんです。ちょっともう一回戻ると、実はこの道は体育館に行くための道なんです。なので、必ず1日の中で体育館を使う子はここを歩いていかねばならないのと、あと、小学校1年生、2年生の子は必ずここを歩いて2階に上がって自分の教室に行かなければならないので、1日の中で必ず小学校1年生、2年生もこの道を通ります。

そうすると、どうなるかという、ずっと見ていただけると、ここにちょっとキーパーソンの男の子が現れるんですけれども、分かりますかね。ここで、この一番後ろのところがきびすを返して友達を誘っておるんですね。つまりこれ実は司書さんがめちゃくちゃ本の置き方を工夫されていて、今体育から帰ってきた少年があれっとな目とふと止めて、友達を誘ってここで、2人で子ども新聞を読み始めるわけなんですけれども、つまりこうやって今の学校というのはいろんなところに言い方はちょっと語弊があるかもしれませんが、トラップというか、いろんな子どもたちがふと、ああやって通らなければならない道沿いにああいうものを置いたりして、子どもたちがいつどこで学びが発動するか分からないので、ああやってものを置く一つの場所とっても、相当いろんなことを僕らは計画しながらものを置きます。

それから、本の見せ方、やっぱり本棚に刺さっている本よりもめちゃくちゃ展示されている感があって、司書さんがめっちゃ頑張っているというのもあるんですけれども、こんなふうに魅力的に本を置いたりとか、それから、こんなふうに五中もそうですけれども、こうやって大階段、これは中学校3年生が見ていて、小学校5年生が歌っていて、小学校5年生と中学校3年生が昼御飯を食べた後、交流会という趣旨でお互い歌い合うと。その上側には誰が来ても、見に行ってもいいので、小

学校3年生の子たちが「うわ、まじいいじゃん」という感じで上で見ているという感じで、こういった教室以外の場所でもどんどん積極的に使われ始めています。

それから、これ風越学園とちょっと有名な軽井沢の私立の学校、小中なんすけれども、これはまず入り口で、入口を入るとまず図書室がお目見えして、セキュリティとかはなくいきなり本がお出迎えするんですけれども、側面を見るとたったこれだけしか教職員室がなくて、フリーアドレスで先生方はどこで執務してもいいよというシステムを取っているの、職員室が閉じてもいいないし、めちゃくちゃオープンになっちゃっているというところです。

それ以外にもいきなり靴を脱いで上がるとこうやって本が置かれていたりするという感じで、さらに奥へ進むと、今度はこうやって図書の間がスロープになっていて、ずっと上りながら、本を横目に見ながら自分の教室へ上がっていくというふうな形になっています。要は通路と図書とか、学びの機会というものがいろいろ散りばめられている中を彼らは日常通るわけなんですけれども、ふと上って見返すと、こうやってスターバックスよろしく自分の学べる場所のような次週の間があった、彼らはやっているんですけれども、ところが、下から見上げると、子どもたちには見えません。こうやって自分の場所としてひっそりと実は彼らは自習をしているという感じになったりしますというふうな学校もありつつ、いろいろあるんですけれども、あと、これは階段上るときに、ずっと上っていくとウクライナの本が展示されていたり、ただ階段を上り下りするだけでも、途中今度は俺このカレー好きみたいなのがずっと書いてあったり、ずっと上って、これは大阪の私立の中学校、高校なんですけれども、そうすると、受験の情報があつた最後に数学の問題がここに書かれている、ちょっと解いてやろうかなみたいな感じになるというふうなふうに、たったこれだけの間の中にいろんな情報が散りばめられていて、それを学校側も工夫していると。

こうやって職員室のコーナーの前にいろんな場所を置いたりするので、生徒の子たちも気軽に「先生、先生」と声をかけながら、先生にいろいろ聞きたいことがあれば教えてもらったりというふうな感じで、こういう空間のど真ん中に先生の部屋があるという学校とかもあつたりします。

それで、これは富山県の小学校、最後ちょっとこれだけお伝えして、もうすぐ15になるので終わるんですけれども、何を言いたいか。つまりこれは4年生の教室なんですけれども、ちょっと何か休み時間のように見えますよね。ところが、これは休み時間じゃなくてれっきとした授業中です。

それで、彼らはこうやって円形のテーブルとかビーンズテーブルと呼ばれるグループで集まれるところとか、いろんな家具が置かれているんですけども、彼らは学年が上がるごとに自分で今誰と何をどこでしなきゃならないのかというふうなことを考えながら、1年生からずっと鍛え上げられていきます。なので、4年生の段階だと「先生、俺これちょっとここで使ってこれこれしたい」、「じゃあ、いいわよ」ということで右端の先生はあそこを許可して、子どもはあそこを使っているわけなんですけれどもという感じで、今はもう自分で判断をして、自分でいろんなことを学び取っていかなきゃならない時間が圧倒的に今まで僕らが小学生だったときより増えてきたという時代に入ってきているので、授業のやり方もそうですし、空間も相当いろんなものが変わってきているということで、ちょっとここまでで一旦共有は、実はほかにもいろいろあるんですけども、何かあれば聞いていただければと思います。

すみません、走るように御説明しましたが、ありがとうございました。

○会長 限られたお時間の中でということになりましたので、私も副会長も呼吸ができないぐらい全速力で御説明をさせていただいてしまいましたので、なかなかちょっと全部を把握していただくということは難しかったかもしれませんが、ぜひ今の2人のプレゼンテーションを踏まえまして、委員の皆様から御質問でもいいですし、お感じになったことですか考えられたこととか、そういうのをフリーでお話しいただければなというふうに思いますが、どなたか突破口を切っていただける方がいらっしゃれば、いかがでしょうか。

○委員 御説明ありがとうございます。

副会長にちょっとお聞きしたいんですけども、すごい楽しそうな学校で、我々のときとは全然違うな、学校に行きたくなるようなスペースがあったんですけども、多分子どもたちはすごい楽しそうであるというのは感じ取れたんですけども、教職員の意見、コメントというか、何かあれば教えていただきたいんですけども。

○副会長 多分会長のほうがもしかしたらきっとお詳しいと思うんですけども、一応いただいたので、まずお話しすると、一番分かりやすいのは、私立の先生と公立の先生の意識の違いを知っていただく多分一番分かりやすく、私立の先生は、やっぱり少子化ということで、なかなか自分の学校に定員を充足させるためにいろんな魅力をいろんなところで打たれるわけなんですけれども、なので、私立の先生たちはもう気づいていらっしゃるんです。つまり先生が前に立って一方的に教えるだけでは学校としての魅力はもうない。子どもたちが来てくれない。もっともっと

魅力的で子どもたちが主体の授業にして、先生は黒子のようにして、あるところで見つめていて、ずっと手を出すというふうなことをしないと、これからの学校はもう先生の役割は終わっているというふうに私立の先生でおっしゃる方はいます。やっぱりそうだなと海外を見ているとそう思うんです。

公立の学校の先生方もそこはかなり現場を見ていると追いついてきている感じがして、やっぱり今までのような授業では成り立たないなというふうに感じていらっしゃる先生も増えてきたという感じはします。

一方で、やっぱりトラディショナルな先生が前に立たれてチョーク一本みたいな職人かたぎの方もやっぱりいらっしゃるって、それが駄目とかそれを排除するという話でもないんです。やっぱりいろんな空間、いろんな教室の運用があるので、先生がやっぱり先生のやりやすいように選ぶようなポテンシャルをいろいろ計画して埋め込んでおくということが多分一番大事で、なので、無理やりこれをやれということとはちょっとまた時代は違うかなと思うんですけれども、やっぱり先生方は横目に見ていらっしゃるの、自分もあれやってみようかなとか、若い先生の場合は相当いろんな電子機器を使いながらやられるので、見ていると、見ているほうも楽しいという感じはちょっとありますけれども、すみません。

○会長 ありがとうございます。

今の質問はぜひ校長先生方からコメントをいただいたほうがいいんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。勝手に振りまして、すみません。

○委員 設備の問題とか施設の問題ということになったらあれなんですけれども、学校の先生たちは主体的な子どもたちの学びということを中心に授業をしていこうということをやっています。それから、例えば各学校でそれぞれの課題があって、授業の工夫、やり方の工夫というのはつくられていると思います。本校では、やはり子どもたちに1つの学習内容を単元と言うんですけれども、その学習内容のゴール、こんな力をつけてほしい、単元がついたらこんな力がつくんだよとか、この単元の目的はこういうことで勉強するんだよというゴールのイメージを示した上で、子どもたちに学習計画をつくらせて、子どもたちの学習計画に沿って授業を進めていくというような活動もしています。そういうことを何回か重ねていくと、子どもたちが主体的に自分たちで学習計画をつくれるようにある程度はなるんです。

ただ、それを全て子どもたちに任せるというわけではなくて、子どもたちは新しい経験の中でしか学びは難しいので、その先を示すとか、そのゴールの先に見える未来を示すのが今教員の役割はすごく大きくなっているのかなというふうに思っ

います。本校ではそういった研究を行っています。

以上です。

○委員 本校は、ちょうど今映像を見せていただきましたけれども、ちょうど個別最適と協働的な学びの市からの指定を受けまして、2年間今研究をしているところなんですね。ちょうど昨年度末に渋谷区立の中学校にも視察をさせていただきましたので、教員のほうは割とイメージができて今取り組んでいるところです。

以上です。

○会長 私にマイクを握らせると話が止まらなくなりますので、ぜひ違うまた意見というか、観点を出していただければと思いますが、どうでしょうか。

ありがとうございます。

○委員 今映像を見たんですが、図書室のことなんですが、三中はもう図書室の利用率がすごい低いんですね。ということは、場所がまず隔離されている。何か教室とか子どもたちからちょっと離れたところにあるという感じなんですね。

それで、今見ていて、あれだけオープンになっているとすごくいいなと思って、私も五中も見学に行ったんですが、うちは孫が西東京から中学1年生でこっちへ引っ越してきて五中に行っているんですね。それで、いつも聞くんです。「どう、五中。どう、五中。図書室どう」といつも聞くんですけれども、あまり本を読まない子が図書室に行くとか、やっぱり壁もないし仕切りがないから、何となくふらふらと行くと。やっぱりその中で目についた本というのは、子どもたちが興味を持つ1つかな。

だから、これからの学校づくり、この図書室の場所とかそういうものはすごく重要だと私は感じましたので、あとは、教育の場のあれはこれからの先生は大変だなとすごく思っているんですけれども、やっぱりつくられた新しい学校にぜひ合うような教育を武蔵野市も先生方と一緒に取り組んでいただきたいなと思っております。

○会長 ありがとうございます。

ぜひ図書館ということで、先生、簡単に一言何か今のものに関しまして。

○副会長 今おっしゃっていただいたとおりです。僕もすごくそのまま丸ごと共感しますし、やっぱり図書室というもののポテンシャルがなかなか今までちょっと閉じて、もっともっと本当はあれを使える素材なので、多分五中をいろいろ気にかけていらっしゃるのかなと思うので、1つやっぱりそれもこれからの時代だなというふうに思います。

○会長 ありがとうございます。

そのほかの方、いかがでしょうか。ぜひ。お願いいたします。

○委員 今先生方がおっしゃっていたことも含めて、私がもう一個前の策定に実は入らせていただいていた、個別最適な学び、ウェルビーイング、協働的な学び、地域の方とかというところも含めて、先ほどニュージーランドの小学校の駐車場なんという話もいただきましたし、いろんな学校のほとんど図書館が起点になって学びが始まっていくみたいな映像を見せていただいたかと思うんですが、子どもたちもそうですし、地域の方、財産をどうやって育てるのかということをいま一度、今の学校の在り方プラスアルファで子どもたちの安心・安全もあるんですけれども、開かれた場所というふうになっていくにはどうしたらいいんだろうなということを改めて感じさせていただいた資料、お話だったなというふうに思っています。

私は第四期策定に入らせていただいているので、それを踏まえた上でこの学校計画があると多分本当に未来の形で、武蔵野市自体ではそれができるからこそ策定されたものだと思っているんですね。五中の学校の形で、今既にいろんな学校の施策で行われている個別最適な学びにつながっていく、子どもたちが主体的に学んでいくということが子どもたちの行っている四小でも既に行われていると思っています。先生方、専門家に聞こうと。先生の専門は何でしょうというようなもう質問を投げかけて、6年生はそれに向かって先生たちにアンケートを取ったりですとか、インタビューして、それをまた新聞にして学校に貼り出すということをしているんですね。

そういったところも含めて、こういうことが日常的に起こってくる形が未来の形になってくるのであろうなというふうに、やはりAIやデラックスという部分も含めて言うと、学校で子どもたちが、あいうえお、漢字、算数、これを学ぶのではなく、もっと違うここでしか学べない、学校にみんなが来る、同級生以外の方がいるから学べることを学ぶためにはどうしたらいいのかということを考えていける会になったら、この先の未来の60年続く学校、60年間あってこの形でよかったなというように、これがさらにまた60年後にこれを基に次に行こうというようなお話になってくるのかなというふうに感じました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

恐らく今のコメントでいくと、開かれたという言葉の意味が変わってきているというふうに思うんですね。ただ門を開ければいいという開かれたというところではない、もう本当に未知の世界に学校自体が開いていくような、そんなイメージに

変わってきているのかなというふうに思います。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

ありがとうございます。

○委員　たくさん今見させていただきまして、カルチャーショックみたいになっていまして、私の家作にも武蔵野の学校の小学生の先生、教師がいらっしゃいます。その方を見ていますと、今までのイメージの教師の方と大分違っていて、ちょっと普通のお兄ちゃんみたいな感じの方なんですよね。その方が毎朝ちゃんと礼儀正しく出ていって、帰ってくるとちゃんと返事してくれたり挨拶してくれる方なんですけれども、その方の動きを見てみますと、教師は大変だなというのが何か今見ていまして分かりまして、教室で教える方法も全部変わってくるのかなと思うんですけれども、これが改築に5年かかるわけじゃないですか、最低でも。そうすると、その過渡期になる子どもたちも今この教育を受けていると思うんですけれども、その方たちが新しい教室に入ったときにちょっと違うような感覚があるのかなと思って、そのほうをうまくスムーズに動かしていただけるような教育を今からしていただいたほうがいいのかなというふうに考えました。

○会長　ありがとうございます。

今いただいた御意見は、私たちはやっぱりプロセスとして見ていかなきゃいけない部分もあるだろうなというふうに思いますね。点でものを考えるのではなくて、5年後、10年後という本当にそのプロセスは止まってくれないので、そのプロセスをどういうふうに変化していくのかということも踏まえながら議論ができればなというところでしょうか。ありがとうございます。

ぜひお父様、お母様の立場から、保護者の皆様から。

ありがとうございます。

○委員　見ていて何かすばらしいなと思ったんですけれども、ただ1つ、PTA会長を私は4年もやっているのであれなんですけど、教職員の皆様の仕事量、多分一番は。何か子どもに接するのをすごくしたいけれども、ほかの仕事量があり過ぎてそこまで回らないという先生たちの意見も実はちらほら私自身も聞いていて、小学校は今うちの二小のほうなんですけど、6年生の先生が結構本当に子ども主体性で授業を進めて、変な話、うちのクラスは会社みたいな組織をつくっているんですね。学校がトップ、うちの二小のトップの先生、校長先生が社長みたいな、教員の先生が副社長というか課長、部長みたいな形で、子どもたちが議事を出すというふうに今はしているんですけれども、うちは中学生がいるので、中学はどうかといったら、

本当に教科書と。タブレットをあまり使わず授業をしていて、やはりそこが結構私は気になっていて、小学校ではすごいタブレットをいっぱい使うのに、中学に行ったら多分高校受験の関係なのか、本当に教科書のとおり授業を進める。

先生たちも工夫はされていると思うんですけども、やはり小学校のときにタブレットをすごいいっぱい使っていたのに中学ではなぜタブレットを使わずに黒板とそこでやっているのかというのが結構私の中ではカルチャーショックというか、それを今後、五中のほうで新しい校舎になってやっていて、今後それを中学のほうでも小学校でもやると思うんですけども、じゃあそれが何かやはり受験対策という形になると、やはり教科書、タブレットを使わないでいって先生たちがそれでやっていくのか、何かいろいろとそういう部分の教職員の質というよりも多分高校受験の対策、そういう部分とか、いろんな部分でのぐちゃぐちゃな部分ですかね。

未来というか、想像とやっている行動と実際の現場というのがちょっと私が最近というか、ずっと気になっていたことなので、何か今後それも武蔵野市さんの教育委員にそれを言ってもあれなんですけれども、ごめんなさい、私もいろいろ思うんですけども、何かそういう現場の教職員の部分の質ではなくて仕事量とかを本当に教育という部分、子どもたちとの接点をもっと増やしていただきたいというのが結構保護者の中では言われている内容かなと思っております。

○会長 ありがとうございます。

多分私が答えるよりも先生方から。

○委員 御意見ありがとうございました。

実は私、本校に来て2年目なんですけれども、1年目の最初に全員の授業を見ました、教員の。使っていないんですよ。あれ、おかしいな。私その前に江東区と練馬区にいましたので、半数ぐらいの教員は使っていたんですけども、使っていない、おかしいな。こんなものじゃないよなとずっと悶々としていたんですね。

結論から言いますと、うちの教員は使っています。今年度から使うようになりました。早速あした、今学校がタブレットを使って1人1台端末といろいろ今それを使うのが当たり前だと言われているんですけども、その仕掛けた大学教授の方をあした講師でお招きして研修会を行いますので、3時から4時半、もしよろしければ来ていただければありますので、よろしくお願いします。

本校に来ていただければ、いつでも学校公開なので来ていただければ、うちの教員は使っていますので、一度見に来てください。それは自信を持って言えます。随分授業を改善してくれたので、以上です。

○委員 パソコンを使う、コンピューターを使うというのが調べ物で調べるので使うというのでは、使うという私たちは感覚がないんですね。子どもたちが調べたことをアウトプットしていく、整理していく、まとめていく。そして、子どもたちと共有する、これで初めて使ったというふうに考えているので、こういった場면을学習の場面で増やしていきたいなというふうに思っています。

うちも学校でどういう使い方をしているかというのは、いつでも学校に来ていただいて見ていただければ本当にいいので、見ていただけたらなというふうに思いますので、ぜひよろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。

ぜひお父様の立場からお願いいたします。

○委員 スライドで御説明していただいた内容を見ていて、まず少なくとも自分が子どものときと全然違ってきているなというところを本当に感じました。私、今学校公開とかによく行って境南小の授業を見ているんですけども、やっぱり子どもたち主体で考えさせる授業というのをやっている。ただ、学校のつくりとしては私が子どものときの学校と全く同じ築50年なので、学校の中でもそういったことをやっているというところで、先ほど御紹介いただいた学校は本当にいろいろな学校があって、あと、私も五中のほうは見に行かせていただきました。

やっぱり全然違うなというところは、構造から変わっていくというところの中で、その中に合わせた教育というものが行われてくるものなのかなというのは思っていますので、教育という全体的な方針がまずあって、そこに合わせて行われていくものだと思うので、その内容以下のところはあまりコメントするところではないのかなと思っていて、そういった学校がどういった形のいわゆるちょっと前と言えば壁のない学校とかというところというのは私の地元ではつくられたりしたんですけども、またそことも少しずつ変わってきているのかなというふうには思ったので、そこら辺はちょっと全体的な在り方というところと、あと、子ども視点プラス教職員の方がそこに合わせてどういった働き方をしていくのかというところ、私は働くほうの立場なので、そういったことも効率的なところだと、先ほどのリーフレットのほうで教職員の方で1割強の方しかアンケートの答えていなかったところがあると思うので、実際に学校で働く方の意見というのは多く取り入れてつくっていただけるとありがたいなというふうに思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございました。

今非常に大事なところを押さえていただいたと思うんですね。確かに私たちのこの委員会の仕事というのは、学校校舎どうしていくかというところが主になってくるんですが、校舎をどうして考えていくかというのは、やはりそこでどういう教育を展開していきたいのかというところと連動しないとおかしいはずなんですよ。ただ建物だけつくってそれでいいかと、そういう議論ではないはずなんです。

つまり我々が議論を進めていく中では、武蔵野市としてどういう教育を展開していきたいのか、何をやろうとしているのかというところと必ず話はリンクしていかないと、かけ離れてしまっただけの張りぼてと言ったらおかしいですけども、中身のない学校になってしまうと思うんですね。というところで、武蔵野市としてどういう教育を進めていこうとしているのかということに関して、教育計画的なもの、お時間があまりないので、概要的なところだけでも、ポイントだけでもついでに教えていただくと、今可能でしょうか、それとも次回とかにしたほうがよろしいでしょうか。

○事務局 昨年度3月に策定した第四期学校教育計画のほうで出しているポイントは今御説明することもできますけれども、そうすると口頭になってしまうので、概要図だけでもお示しをさせていただいたほうが皆様に伝わりやすいのかなというふうに感じますが、いかがでしょうか。

○会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。今後の議論を進めていく上で、分厚いものを読むのはなかなか厳しいものがあると思いますので、方向性が分かるような概要、全体像が分かるようなものを次回以降お示しいただくということで、事務局のほうはよろしいでしょうか。委員の皆様もそんな感じでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、そのほか、いかがでしょうか。何かもう少しこれは言っておかなきゃというところがあれば、ぜひ。私にマイクを握らせると時間がなくなってしまうので、ぜひ校長先生方、いかがでしょうか。

皆様、どうでしょうか。多分この勢いに圧倒されていらっしゃるでしょうか。大丈夫でしょうか。

お願いいたします。

○委員 副会長の映像を見ていて、割と第五中学校も近くないかなと率直に思いました。さすがに駐車場で授業なんていうのはやっていないですけども、あれは斬新過ぎたなと思いましたけれども、中身としてはそんなにフリースペースもあった

ラーニング・コモンズもあつたりで、イメージとしてはいつているのかなというふうに思ったんですが、実際ちょっと副会長とかもお話の中でちょっと御覧になったかのようなお話もあつたんですけれども、いやいや、もっとこういうことなんですよというのがあれば、五中を御覧になった上でもっと今はここまで到達していますよということがもしあるのであれば、ちょっとその差分を教えてほしいなと思いました。

○副会長 ちょっと今日本当は1つ動画を一番冒頭で流そうと思ってやめて、時間の関係でやめたというのがあるんですけれども、五中を見てもそうですし、今回我々は、先ほど会長はコロナ中にちょうど校長先生をされていたというまさにコロナのときに、一度我々学校建築に関わる者も本当に学校に来なきゃならないのかという議論にやっぱりなつたんです。建築が要るのかと。いろいろ経た上で、でも、やっぱりオンラインで授業のすごく上手などこかの塾の先生がユーチューブで上げていらっしゃる授業を聞けば、何かそこから得られるものももちろん効率よく得られるんですけれども、そして、うちの娘は1.5倍速で聞くみたいな、そういう時代ですよ。

でも、それはすごく予定調和的な成長の仕方にならなくて、学校にわざわざ来て、そこで、学校はやっぱり1日の中ですごく偶然の連続で成り立っている場所だと思うんです。予期しない友達からちょっと嫌なと言われる。それから、全然予期しない女の子から告白をされるみたいなことも全部含めて、その学校敷地全体の中で起こっていること全てがやっぱり学校にわざわざ来て得られる経験の一つ一つであり、プリペア・フォー・ライフということにつながると思うので、五中はまさにそういうふうにやっぱり生徒の子たちが動いて何かをしているもしくは図書室で何かを読んでいる、それから、こそつとどこかで2人が話をしている、そういったことを全部含めた環境として五中は成り立っていると思うので、すごく五中はいいなと思ってこの間拝見しましたし、あれに準じる学校がどんどんいろんな地域で、そういう偶然の学びというものをたくさん生み出せるような学校が増えてきているので、ぜひ武蔵野市としてもそういったことが1つ学校を設計するときに組み込まれるといいなというふうにちょっと期待をしていますという感じなんですけれども、お答えになっているでしょうか。

○会長 ありがとうございます。

そのほか何かあれば。

どうぞお願いいたします。

○委員 今、五中が、新校舎において、御説明いただいた主体的・協働的な学びというのを一定程度実践してきているというところだと思うので、さらにそこに児童生徒の視点ですとか、保護者の視点ですとか、教員の視点というのを多分この委員会のところでしっかりと議論して、今後の方向性を見定めていくことになるのかなというふうに思っています。

そして、すみません、私は財務という立場で参加しておりますので、ちょっと皆様と違った視点でどうしてもお話をせざるを得ない点があります。今、武蔵野市は市民の皆様の非常に高い担税力に支えられて、財政力指数というのも非常に高いですし、本当に全国有数での豊かな財政力というのを誇っているところではあります。が、市内公共施設の大更新期というのがちょうどこの一中、五中から始まっていて、今工事における物価の高騰、また労務費の高騰が顕著であり、非常にこれからのものすごいお金がかかってくるという状況があります。昨年度の財政シミュレーションにおいて、学校とその他の公共施設等を合わせて向こう30年間で約4,000億円という試算をしていますが、直近、またこれを試算し直すと、さらにこれも上がっていくというようなところがございます。

武蔵野市の学校のボリュームというのが武蔵野市の公共施設全体の約半分を占めているというところで、この学校改築事業の持つ武蔵野市自体の今後の財政に対してのインパクトが非常に大きい、影響が大きいというところをこの委員の皆様にもぜひ共通認識として持っていただきまして、未来の武蔵野市の子どもたちのための学校はいいものをつくっていくということと、武蔵野市が今後も引き続き持続していく自治体でいられる、というこの2つのバランスを取りながら両立していけるような、そういう方向性で議論していけたらいいのかなというふうに思っております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。何となく流れで。

○委員 何か言わないといけない感じなのであれですけども、コストの話、そこは私も多分今後することにはなると思うんですけども、1つ、学校の工夫とコストは必ずしも新しいいろんな取組をすると、イコールお金がどんどんかかるというわけではないので、そのところはちょっと切り分けて考える。ただ、どこかではコストの話もしっかりしなきゃいけないとは思っています。

あと、やっぱり今日見て思ったのは、この間の変化といったときに、学校が例えば60年とかもっと使うといったときに、今こうだというところが30年後はどうなる

と多分誰も予想ができないので、そこをどう考えていく。素人とかだと、いろんな使い方をできるほうが対応はできるのかなぐらいは思うんですけども、だから、今言ったところが一番未来をどうやって予想できるんだったら、それこそ予定調和になっちゃうなみたいなことを考えていました。

○会長 ありがとうございます。

ちょっとそろそろお時間にもなってきていますので、少し私のほうでまとめまではいきませんが、少しお話をさせていただきたいと思います。

本日の副会長のプレゼンを皆様に見ていただいて、恐らく今行きたいというふうに思えるような御提案というかプレゼンがたくさんあったんじゃないかなというふうに思うんですね。行きたくなるというのは、子どももちろんそうですよね。でも、我々大人が見てもやっぱりわくわくするということは、行きたくなるというのは子どももそうですし、先生方もここで働きたいと思うような、そういう観点も私は必要じゃないかなというふうに思っているんですね。

先ほど、委員のほうからICTを使っていないのよというお話もありましたけれども、私は日々現職の先生方と一緒に大学院で学んでいて、先生方はものすごくいろんなアイデアもお持ちだし、工夫もされているし、研修も受けていらっしゃるんですね。どうやったら子どもたちに学びが生み出せるかというのを一生懸命やっているけれども、ただ、現実問題、物理的にできないという現実もまたあるというところは非常に悔しい思いもしているところもあると思うんですね。

先ほど申し上げましたけれども、例えばICTというのは使うことが目的ではないんですね。それを使って何を生み出すのかというところが大事なところなんですよね。とはいえ、ICTがなければ何も始まらないというところもあると。なので、行ったり来たりしながらいろんなことを考えていかなきゃいけない部分もあるだろうというふうに思います。

ただ、今日の映像もを見せていただいて、副会長のこの今日見せていただいた映像というのは、この10年を見てとかというお話ではなかったですね。ほんの数年中でこれだけいろんなものが変わってきているということですよね。つまり私は財という言葉をお金という意味ではなく、財、資源という考え方をすごく大事にしているんですけども、こういうもう既に財が日本にもあるわけですよね。それを武蔵野市として最大限使わない手はないだろう。子どもも行きたくなるし、先生方もあしたここで仕事をするのが楽しいなと思える、また、我々保護者としてもこういうところで子どもが育っていくのかというのをわくわくしながら見ていけるような、

そういう学習環境、教育環境というのをどうやったら生み出せるのかというところをぜひ皆様に考えていきたいというふうに思うんですね。

一方で、先ほど申し上げましたが、学校施設というのは教育政策と切り離して考えていいものではないはずなんですね。ですので、武蔵野市としてどういう教育を展開しようとしているかというところ、そこをやっぱり私たちはしっかり理解しなきゃいけないというところ、それから、残念ながら財政という問題ですよ。そこも無視はできないというところもあるかなというふうに思います。いろんなことを考えながらこれから私たちは議論を進めていければなというふうに思いますが、ただ、ぜひ感じたことを皆様に共有しながら、全部が取り入れられるかどうか分かりませんが、やっぱりこうやってそれぞれの立場で感じたことをどうやったら実現できるか、残念ながらそこはちょっと難しいですねということも含めながら皆様に議論できる、そういう会を今後も進めていきたいなというふうに思います。

突然振りますが、副会長、補足をぜひ。

○副会長 今もう本当にうまく落とそうとしてというか、まとめてくださったので、僕からは何もありません。すごい見事な手腕というか、ありがとうございます、まとめていただいて。

○会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、次第のその他に移らせていただいてよろしいでしょうか。これだけは言っておきたいということは大丈夫ですか。よろしいですか。

ありがとうございます。

◎その他

○会長 では、次第の7、その他に関しまして事務局のほうから何かあればお願いいたします。

○事務局 事務局のほうから4点ほど連絡事項がございます。

まず第1点目、次回の日程についてとなります。次第のほうにも書かせていただきましたが、次回、第2回は9月18日木曜日、午後5時から7時まで、市役所811会議室になりますので、こちらは廊下を挟んで向かいの会議室になります。よろしくお願いいたします。

続きまして、2点目、年間のスケジュールのところでも少し触れさせていただいたんですけども、先ほどから話題にも上がっている第五中学校も含めて、大野田小学校と第五中学校の施設見学できる機会をつくらせていただきたいと思います。

ます。

資料12を見ていただければと思います。

こちらは9月12日金曜日の9時20分から12時ということで時間を設定させていただいております。市役所に集まっていただいて、マイクロバスを用意させていただいております。市役所から大野田小学校に行きまして、大野田小学校見学、その後、またマイクロバスで移動して、第五中学校を見学して、お昼に市役所で解散をするというスケジュールを組ませていただいております。もし御参加が可能であれば、新しい学校というのを実際に見ていただくとまた違うところに気づけるかなというところもありますので、よろしくお願いいたします。

3点目、会議録についてです。会議録については、でき次第、皆様の連絡先のほうにEメールで送らせていただきます。その時点ではどなたがどういう発言をしたのかお名前も入れた形で御確認をいただきたいというふうに思っております。それ以降、最終的にお名前のところは伏せさせていただいて、市のホームページで公開をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後に4点目になります。この会議に関して何か質問等ございましたら、教育部の教育企画課が事務局となっておりますので、こちらにお問合せをいただければというふうに思っております。

○会長 ありがとうございます。

今回の日程、また、学校施設見学の日程等をお示しいたきましたので、御確認いただきたいというふうに思います。

◎閉会

○会長 それでは、以上をもちまして、本日の第二期武蔵野市学校施設整備基本計画策定審議会、第1回目の会議を終了とさせていただきます。

御協力のほどありがとうございました。

午後 6時59分閉会